

### 熊本城記念スタンプ

南口・北口・二の丸・わくわく座券売所に設置しています。

日本100名城スタンプは、公式スタンプ帳へ押印ください

## INFORMATION

**熊本城** TEL.096-223-5011(熊本城運営センター)  
 開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)  
 【お願い】特別公開エリアでは、次のことにご協力をお願いします。

- 火気厳禁
- 全館禁煙
- ペットの入場不可
- ホイ捨て禁止
- 一部展示の写真・動画撮影・録音の禁止

**熊本博物館** TEL.096-324-3500  
 開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)  
 休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日

**桜の馬場城彩苑**  
**熊本城ミュージアムわくわく座** TEL.096-288-5600  
 開館時間:午前9時～午後5時半(入館は午後5時まで)  
**桜の小路(お土産・お食事処)** TEL.096-288-5577  
 営業時間:お土産処 午前9時～午後6時  
 お食事処 午前11時～午後6時 ※午後6時オーダーストップ

**旧細川刑部邸** 地震被害のため休園中

**復興城主・災害復旧支援金**  
 熊本城復旧・復元にご協力をお願いします。  
 ご寄付は復興城主受付(「二の丸お休み処」横)で受け付けています(現金のみ)。  
 詳しくは熊本城公式ホームページをご覧ください。

**熊本城総合事務所** はこちらをチェック! (熊本城公式HP)  
 〒860-0806 熊本市中区花畑町9-6  
 TEL.096-352-5900 FAX.096-356-5655

### 熊本城公式アプリ

お手持ちのスマートフォンに「熊本城公式アプリ」をダウンロードしてください。

●アプリの機能

- 天守閣常設展示の解説文や映像内容について、音声や字幕で楽しむことができます。※対応言語:日本語・英語・中国語・韓国語
- 天守6階の展望フロアにおいて、AR(拡張現実)の機能を用いて現在の風景に古写真を重ねて眺望を楽しむことができます。

●アプリのダウンロード

上記二次元コードを読み込むか、App StoreまたはGoogle Playにて「熊本城公式アプリ」で検索・ダウンロードしてください。  
 くまもとフリーWi-Fiを利用時のダウンロードが可能です。

## 料金案内 ( )の料金は30人以上の団体料金 ※未就学児は無料

熊本城	熊本博物館
入園料	入場料
小・中学生 300円   (240円)	中学生以下 200円   (160円)
高校生以上 800円   (640円)	高校生・大学生 300円   (240円)
	一般 400円   (320円)
年間入園券	プラネタリウム観覧料
小・中学生	中学生以下 100円   (80円)
高校生以上 1,600円	高校生・大学生 150円   (120円)
	一般 200円   (160円)

※プラネタリウムの観覧には、入場料も必要

**熊本城ミュージアムわくわく座**  
 入館料  
 小・中学生 100円 | (80円)  
 高校生以上 300円 | (240円)

**熊本城・わくわく座・熊本博物館3館共通券**  
 小・中学生 400円  
 高校生以上 1,100円

お得な共通券で熊本城界隈をもっと楽しく!

共通券

共通券	熊本城・わくわく座・熊本博物館2館共通券	熊本城・わくわく座・熊本博物館3館共通券
小・中学生 300円	小・中学生 400円	小・中学生 400円
高校生以上 850円	高校生以上 1,100円	高校生以上 1,100円

### 共通券対象施設

**1 桜の馬場 城彩苑** はこちらをチェック!

熊本城ミュージアム わくわく座  
 大迫力の熊本城VR映像をはじめ、多彩なコンテンツで熊本城の歴史文化を楽しく学べるミュージアム。

桜の小路  
 熊本県下から選りすぐりのお店が軒を連ねるお食事・お土産処。熊本の名産品や桜の小路オリジナル品などが購入できます。

**2 熊本博物館** はこちらをチェック!

熊本の成り立ちや歴史・文化・自然に関する資料を収蔵・展示。加藤家と細川家、熊本城について、知識を深めることができます。地下にはプラネタリウムを併設。黒川紀章設計の建物も見えます。

## バス利用案内

**無料シャトルバス** 城彩苑⇄南口⇄二の丸駐車場を約10～15分間隔で運行(午前9時～午後5時 最終は二の丸発)

**熊本城周遊バス しろめぐりん** 運行期間等については、公式サイトをご覧ください

	1回利用	1日乗車券
大人	180円	500円
小人	90円	250円

こちらをチェック!

## 特別史跡 熊本城跡 MAP

●形状 平山城(ひらやまじろ)  
 ●天守閣 天守3重6階地下1階、小天守2重4階地下1階 ※昭和35年(1960)、鉄骨鉄筋コンクリート造で外観復元  
 ●重要文化財建造物 (国指定13棟)宇土櫓、田子櫓、七間櫓、十四間櫓、四間櫓、源之進櫓、東十八間櫓、北十八間櫓、五間櫓、不開門、平櫓、監物櫓、長塀 (県指定)旧細川刑部邸

▲国指定重要文化財 ▲無料シャトルバス路線 ▲喫煙所 ▲多目的トイレ ▲車イス貸出し ▲WiFiスポット ▲写真撮影スポット ▲城内見学案内板 ▲インフォメーション ▲1～10 復興見学ルート案内板 ▲A～H 見どころ ▲立入規制区域 ▲救護室

▲国指定重要文化財 ▲無料シャトルバス路線 ▲喫煙所 ▲多目的トイレ ▲車イス貸出し ▲WiFiスポット ▲写真撮影スポット ▲城内見学案内板 ▲インフォメーション ▲1～10 復興見学ルート案内板 ▲A～H 見どころ ▲立入規制区域 ▲救護室

▲国指定重要文化財 ▲無料シャトルバス路線 ▲喫煙所 ▲多目的トイレ ▲車イス貸出し ▲WiFiスポット ▲写真撮影スポット ▲城内見学案内板 ▲インフォメーション ▲1～10 復興見学ルート案内板 ▲A～H 見どころ ▲立入規制区域 ▲救護室

**A 数寄屋丸二階御広間** すきやまるにかいもんひろま  
 地震によって、復元した数寄屋丸二階御広間の下部の石垣が一部崩落しました。五階櫓石垣(写真左)も崩落し、石垣上面には地割れが生じています。

**B 二様の石垣** によう いしがき  
 古い石垣(写真右)に新しい石垣(同左)が突き足された場所、石垣の美しさを実感できる場所の一つです。新しい石垣の上部に、地震による沈下が見られます。

**C 連続枳形** れんぞくまがた  
 竹の丸から飯田丸に向かって6回折れ曲がる通路は、熊本城の防御性の高さを示す場所として知られています。地震によって石垣が崩落し、通路を塞いでいたため、回収を行いました。

**D 長塀(国指定重要文化財)** ながべい  
 坪井川に面して約242m続く長塀。西南戦争のころに一時撤去され、平成28年熊本地震で一部が倒壊しましたが、令和3年(2021)に復旧が完了しました。

**E 東竹丸の重要文化財櫓群** ひたひた まる じゅうようぶんか たいりゆうぐん  
 単層櫓が連続する景観は、往時の様子をよく示しています。地震によって一部の櫓で建物の傾斜が生じたため、ワイヤーなどで倒壊防止を行っています。

**F 本丸御殿大広間(開り通路)**ほんまる ごてんおひろま くらが  
 復元した本丸御殿内部では、地震で壁の破損や床の傾斜が生じました。「開り通路」は目立った被害がなく、全国的にも珍しい地下通路をみることができます。

**G 宇土櫓(国指定重要文化財)**うとぐら  
 純櫓は地震で倒壊しましたが、他城郭の天守に匹敵する大きさである五階櫓は漆喰壁や床などが破損しながらも、重要文化財としての威容を保っています。

**H 西大手門**にしおて もん  
 地震被害のあった西大手門は解体・保管し、崩落した石材を回収しました。石垣前面にネットやグリ石を詰めたカゴなどを設置して安全対策をしています。

**市役所14階展望ロビー**  
 熊本城フォトスポット! 熊本城の全景を見渡せます。  
 平日:午前6時30分～午後10時  
 土・日・祝日:午前9時～午後10時  
 ※平日午後6時以降と土・日・祝日は南側玄関からしか入れません  
 ※年末年始は利用できません

## 熊本城

Kumamoto Castle

## 400 Years of History

- 天正16年(1588) 加藤清正、肥後北平国19万5千石の領主として隈本城に入る
- 天正18年(1590) 隈本城の改修に着手
- 慶長4年(1599) 茶臼山に新城(熊本城)の築城着手
- 慶長5年(1600) 関ヶ原の戦い。この頃大天守完成
- 慶長12年(1607) 新城が完成し、隈本を熊本に改称
- 慶長16年(1611) 清正。50歳で死去。息子忠広が2代藩主となる
- 寛永9年(1632) 加藤家が改易となり、細川忠利が肥後へ入国
- 寛永17年(1640) 忠利、宮本武蔵を招き、現在の千葉城町に屋敷を与える
- 宝暦5年(1755) 二の丸に藩校「時習館」開校
- 明治4年(1871) 廃藩置県
- 明治7年(1874) 城内が陸軍用地に編入。本丸に熊本鎮台本営が移転
- 明治9年(1876) 神風連の変
- 明治10年(1877) 西南戦争。天守・本丸御殿などを焼失
- 明治22年(1889) 熊本地震(金峰山地震)で被災
- 昭和8年(1933) 宇土櫓など13棟が国宝に、石垣・堀が史跡に指定
- 昭和25年(1950) 国宝建造物が重要文化財に改称
- 昭和30年(1955) 熊本城全域が特別史跡に指定
- 昭和35年(1960) 鉄骨鉄筋コンクリート造で天守を再建
- 平成10年(1998) 熊本城復元整備事業始まる
- 平成28年(2016) 熊本地震で被災
- 平成29年(2017) 熊本城天守閣本格復旧に着手
- 令和3年(2021) 熊本城天守閣復旧完了

# 蘇る熊本城四〇〇年の歴史

## 加藤清正とその時代

加藤清正によって築城された熊本城。本丸が完成した慶長12年(1607)に現在の「熊本城」の表記に改め、「銀杏城」の別名でも親しまれています。「武者返し」と呼ばれる反りのある高石垣や巧みな縄張といった独自の築城技術が特徴で、その見事なつくりから日本三名城の一つに数えられています。

## 細川忠利とその時代

寛永9年(1632)、加藤家が改易され細川忠利が熊本藩主となりました。まず熊本城の修理を行い、城下の整備・拡張を進めました。また、藩校「時習館」を二の丸に開校するなど、文化・教育が開花した時代でした。

## 熊本城と近代

明治10年(1877)に起きた西南戦争開戦直前の火災で、天守や本丸御殿などが焼失。西郷隆盛率いる薩摩軍の猛攻にも耐えたことから「難攻不落の堅城」として全国に名を馳せました。

## 熊本城と現代

平成28年熊本地震では石垣の崩落や建造物の倒壊など、甚大な被害を受けました。令和元年(2019)に特別公開がスタートしましたが、復旧作業は現在も継続しています。



## 天守閣完全復旧 内部公開

明治10年(1877)、西南戦争開戦直前の火災で焼失した大小天守。昭和35年(1960)に鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された後、平成28年(2016)の熊本地震では瓦の落下や石垣の崩落、建物の一部損傷などの被害を受けました。復旧工事を経て、令和3年(2021)春に天守閣の復旧が完了。内部の一新された展示とともに、名城の雄姿をお楽しみください。

